

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **72** 平成30年 11月
(2018)

CONTENTS

- 1~2 第19回アジア太平洋フォーラム・淡路会議を開催
- 2 情報ひろば
- 3 機構外部評価結果の概要
- 4 社会の変容にいかに対応するか
- 5 HAT神戸掲示板
- 6~8 人と防災未来センター
MiRAi

第19回となるアジア太平洋フォーラム・淡路会議が、8月3日(金)、4日(土)の両日、淡路夢舞台国際会議場(淡路市)で開催されました。テーマは「都市は競争する —創造性と多様性—」。



記念講演

1日目の国際シンポジウム(一般公開)では、184人の参加の下、記念講演とパネルディスカッションが開催されました。また、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰する第17回アジア太平洋研究賞(井植記念賞)の授賞式も併せて行われました。

「都市の魅力を高めるために日本で取り組むべきこと」と題した記念講演では、デービッド・アトキンソン氏(株式会社小西美術工藝社代表取締役社長)が、まず「日本が抱えている最大の問題点は、これから起きる3,264万人といわれている生産年齢人口の減少であって、少子高齢化ではない。この最大の問題点は需要者がいなくなることで、対策は日本人需要者の代わりに外国人観光客を大量に呼び込むことしかない」と問題点を提起しました。その上で「観光戦略を考えるには、客観性と分析能力が一番重要なポイント。また、観光戦略を実現するに当たっては、価値ある観光資源に付加価値を整備していくことが重要だ」と述べました。

続いて、阿部茂行 機構参与をコーディネーターとして開催したパネルディスカッションでは、パネリストの石丸修平氏(福岡地域戦略推進協議会事務局長)、越直美氏(大津市長)、佐々木雅幸氏(同志社

第19回アジア太平洋フォーラム・淡路会議を開催

大学経済学部特別客員教授)から「福岡の地理的な優位性、人材の多様性や市民力、アジアとの近接性、生活の質の高さなどを競争力として生かしながら、福岡都市圏を東アジアのビジネスハブにするという将来像を持ち、具体的な評価指標も掲げて取り組みを進めている」「自治体の大きな課題は歳入の減少をもたらす人口の減少と歳出の増大をもたらす高齢化の進行だ。大津市でも働く女性を増やすための施策等を進めると同時に、市営施設跡地の開発等に民間事業者の力を使うなど行政の負担を減らす努力をしている」「9.11テロにより『世界都市が競争する』という神話は瓦解した。代わりに台頭した都市モデルが『創造都市』だ。こうした中、文化的な多様性に基づき多くの都市が発展していくネットワークを構築しようという『創造都市ネットワーク』をユネスコが提唱している」などと現状が報告されました。それを基に、「都市間連携では、ハブとして機能するカウンターパートの存在が非常に重要」「観光公害は住民生活の質を下げるので、バランスを取ることが大事」「都市内でも各地域の状況は異なるので、エリアごとのきめ細かいマネジメントが必要」などの意見が交わされました。

2日目は、淡路会議メンバー等60人の参加の下、フォーラム(他に一般より2人の傍聴者)を開催し、3人の講師から基調提案を頂きました。

宗田好史氏(京都府立大学生命環境学部教授・副学長、京都和食文化研究センター長)は、「文化の力で都市をつむぐ」と題し、「京都では大変な町家ブ



基調提案

ームだが、歴史的な文化財を守るだけではなく、どう生かすかがアジアの都市政策の中心に据わってきている。人口オーナスの時代を迎える中、日本は成長から成熟の時代に入った。これからは競争から共創、そして創造力の世紀となる。広がっていく創造都市の流れは、アジア全体を巻き込んで、成熟したアジアの都市社会の中で『文化の力で都市をつむぐ』という新しい革新の力をつくっていくことになるだろう」と述べました。

塚本こなみ氏（(公財)浜松市花みどり振興財団理事長／樹木医）は、「花みどりの持つ力を信じて、感動をお伝えするフラワーパークを目指す」と題し、「全国のフラワーパークの多くが苦しい経営状況だが、ビジネスに損益分岐点があるように、感動分岐点というものがある。私たちの心の中にあり、それを超える園を造れば経営は成り立つ。浜松で一番やりたかったことが、登校拒否の子どもを預かる適応指導教室を開設することであった。また就任2年目からは、ひきこもり青年の預かりも行っており、今後は、発達障害の子どもも預かりたいと考えている。花みどりの美しさが人々の心に優しさや生きる力を与えられればと思っています」と述べました。

矢作弘氏（龍谷大学研究フェロー）は、「持続可能な地方都市の『かたち』-都市圏レベルで都市間連携／協働を希求する-」と題し、「1998年ごろからの平成の合併主義で、地方分権と都市間競争が同時に行わ

れるようになると、結果的に中心市街地が衰退する状況に陥ってしまった。2018年には、複数の市町村でつくる『圏域』を新たな行政主体と考え、圏域レベルで行政サービスの水準を維持することを検討課題として、第32次地方制度調査会が立ち上がった。合併ではなくて都市圏で連携していくということで、もう一回その仕組みを考えようというところに、20年たって戻ってきている」と述べました。

基調提案の後、参加者は、「文化と都市」「自然再生と都市」「都市の国際競争力」の3つの分科会に分かれ、それぞれのテーマで活発な討論が展開されました。

午後からの全体会では、冒頭に分科会での討論の概要について各分科会座長から報告をいただいた後、参加者全員でさらに議論を深め、最後に村田晃嗣氏（同志社大学法学部教授）から総括と謝辞が述べられ閉会しました。



全体会

情報ひろば

兵庫県こころのケアセンター

平成30年度第2期「こころのケア」研修の受講生募集

「こころのケア」に携わる保健・医療・福祉・教育等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ「こころのケア」研修を実施しています。

来年1月から2月にかけて実施する研修の受講生を次のとおり募集しています。ぜひご参加ください。

▶ 研修概要

区分	コース名	期 間	定員	対 象	受講料(資料代等)
専門研修	①対人支援職のためのセルフケア	1月10日(木) 11日(金) (2日間)	35人	保健・医療・福祉関係の対人支援業務従事者(保健師、ケースワーカー、各種相談員、福祉施設指導員等)、教職員、スクールカウンセラー、保育職員等	3,500円
	②消防職員のための惨事ストレスの理解と予防	1月16日(水) 17日(木) (2日間)	35人	消防職員	3,500円
	③発達障害とトラウマ	1月31日(木)	35人	こども家庭センター(児童相談所)職員、福祉事務所職員等児童虐待関係職員、保健所職員、教職員、スクールカウンセラー、保育職員等	2,500円
	④子ども達のいじめのケア-加害者と被害の連鎖-	2月14日(木)	35人	教職員、スクールカウンセラー、教育委員会職員、こども家庭センター(児童相談所)職員、いじめ相談窓口の相談員、保育職員、児童福祉施設職員、司法関係職員	2,500円

▶ 場所=兵庫県こころのケアセンター(阪神「春日野道」駅から南へ徒歩約8分)

▶ 申し込み方法=受講申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送、FAX、Eメールのいずれかで下記までお送りください。各研修開始日の1カ月前(前月の同じ日)の17時を期限として、申し込み多数の場合は、初めて受講の方を優先の上、抽選で決定します。

※当センターホームページからダウンロードできます。

● 申し込み・問い合わせ

兵庫県こころのケアセンター 研修情報課

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017 Eメール kensyu@j-hits.org http://www.j-hits.org/